

ニュースレター

No.88

2017年 3月31日

目

次

ページ

2017年度定期総会のお知らせ

1

行事報告

さがみ自然フォーラム

1

県内自然保護ニュース

5

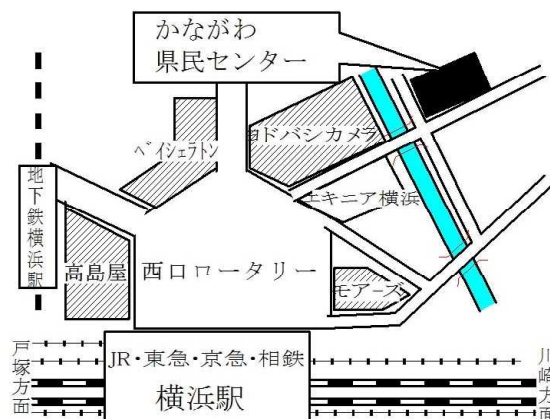
神奈川県自然保護協会からのお知らせ

6

神奈川県自然保護協会 第13回総会のお知らせ

- 1 日 時 2017年6月17日(土)
18時より (開場 17時30分)
- 2 会 場 かながわ県民センター3階 304号室
- 3 日 程
17:30 開場
18:00 総会開会
開会挨拶
18:20 総会議事(総会議案書は次号に掲載します)
議事には役員改選が含まれます。自薦・他薦を含
めて理事立候補希望の方はお申し出ください。
18:55 総会閉会

19:00から 講演会「かながわの帰化植物事情」
県立生命の星・地球博物館学芸員 田中徳久氏
20:30 閉会予定



講演会は会員でなくても参加できます(総会も傍聴自由)。

行事報告

第16回 さがみ自然フォーラム

豊かな自然の保全再生

平成29年2月9日(木)~2月13日(月)

会 場 アミューあつぎ

主 催

厚木市 NPO法人神奈川県自然保護協会

後 援 神奈川県 神奈川県教育委員会
厚木市教育委員会 (公財)日本自然保護協会

(公財)かながわトラストみどり財団 桂川・相模川流域協議会 丹沢・大山自然再生委員会



会場入口

昨年に続き、1週間5階にあるギャラリーを借り5日間展示を行い、その間の土・日は更に8階にあるシネマホールを使って講演会や、各種のステージイベントを行いました。全体での参観・参加者は800名ほどになりました。

展示部門 5階 アートギャラリー 1～3 全期間 10:00～18:00

企画展 里山の成り立ちと文化を考える



里山のくらし 展示



学校の環境活動の取組み

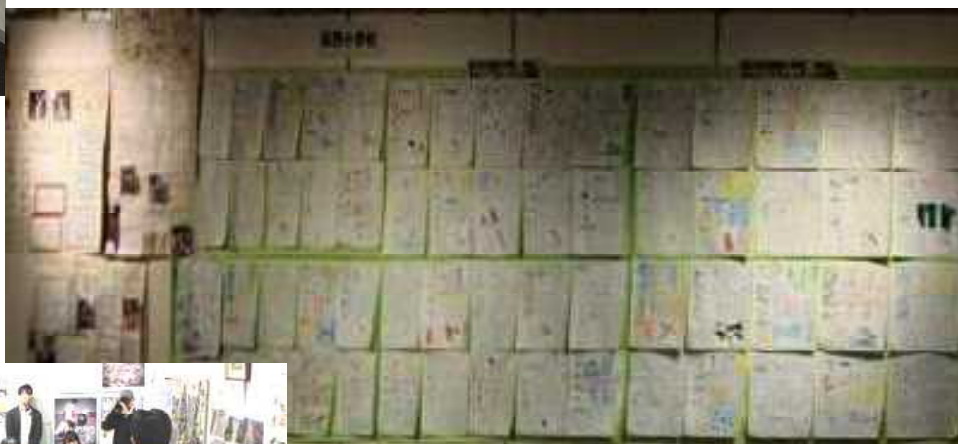
小学校4校、中学校1校の参加がありました。

野鳥を取り入れた学習で30年余りの伝統を持つ厚木市立荻野小が校4年生からは全員の学習成果が展示されました。



展示会場の一部

このほか、七沢希望の丘初等学校、厚木市立相川小学校、厚木市立戸田小学校、厚木市立相川中学校からの展示がありました。



荻野小学校の展示

県内自然保護団体の活動紹介

参加市民団体26団体が出展してくださいました。

それぞれの団体によるポスターセッションは2日に分けて行われ、良い交流の機会になりました。

また県内をフィールドにする大学生・高校生の研究発表のポスター展示がありました。



11,12日午前中に行われたポスターセッション

参加して下さったのは、5大学1高校の17テーマでした。

同じようなフィールドや対象で調査研究をしていながら、お互いの交流はほとんどないことが分かりました。このような機会を通して交流する事で研究への新たなヒントがあったり、また環境保全をする団体の活動の役に立つ情報を与えてくれるなど、今後大いに進めていくことに意義がある事とされます。

更に、今回県内企業から横浜ゴム(株)平塚製造所からの出展も頂きました。企業が環境保全のために貢献していることは多くあるのに、一般市民の目には見えにくいものがあります。今後このような展示を通して啓発することが広がることはお互いメリットのあることとされます。

講演会 9階 ホール 112

「里山を生かした公園づくり」 講師 倉本 宣氏 明治大学農学部教授 2月12日(日)

講演の要旨

「やって、見て、考える」

- 1 里山の定義
- 2 生きもののいる公園づくり

川崎市生田緑地の例

「集まる人たちにはいろいろな目的がある」

ここはたくさんの人が関わっている。その中でどのように自然を維持していったら良いかが課題。

職員は異動があるが、市民にはないので長い年月関わる事ができる。長い目で計画を立てて管理していくことができる。

集まった団体の中に、生きも



ののために植生管理するのか、人間ののためにするのかという二つの対立点があった。

どちらも必要なので、お互いの活動について知っていて、協調して活動していく必要がある。

里山を生かした公園の目標像

- ・新しいレクリエーションの場

新しいレクリエーション；里山に手を入れて自分たちが何かすることを通して楽しむこと

- ・伝統的管理の継続の場
- ・今いる生きものの保全管理の場

いろいろな目標があるということを知った上でそれぞれの活動を展開していくことが大事なのではないか。

具体的には地図の上で植生などにより分けたエリアを決め、場所ごとにどういう目標でどのような管理をするかを決めている。

3 植生管理から生態系管理へ

江東区の仙台堀川公園ポケットエコスペースの例

江東区の市民の人たちが計画を立て管理している。

区分された現況、管理方針、いつ作業するかについて植生管理計画表と名付けたものがある。

やってみて考えるの“やって”の部分だ。

そのあと、やった結果、自分たちで見て、次にどうしたら良いか考えるプロセスが必要。

都立桜ヶ丘公園の例

（職員として4年間関わった公園。）

3つある丘について、それぞれの特質を生かした目標を立てた。

大松山：明治天皇ゆかりの地で重要な観光地と考えられている。見通しを良くここに来たら快適になるよう考えた。→ 目標は木が大きくて林がすっきりしている。下草はあまり生えていない。

こならの丘：木が若くて活力があるように見えたので、皆伐更新して若い雑木林に戻す。

富士美の丘：大きな木ばかりの林だったので、遷移を進め常緑樹林に移って行くようにする。

東京都では公園でボランティアを受け入れるという計画があったので受け入れることにした。ここで最初の里山管理型ボランティア活動を行う事になった。

（雑木林ボランティアを何故はじめたか。

切り株から生えたひこ生えを造園業者に整理してもらおうと、機械的に作業をする。

本当は、どのひこ生えがちゃんと育つか、木が大きくなったときにどんな形になるか、と考えて作業するとすごく夢があるおもしろい作業だ。市民の人たちにやってもらった方がずっと良い、と考えた。）

4 モニタリングの重要性

桜ヶ丘公園こならの丘で

- ・ササ刈りの際に広場に接したヘリの方は何もしない。

最初に少しだけササを刈ってみたところ、たくさん人の人が入るようになり、林の管理のためか、人のためか分からない状態になったので、人が余り入れないようにした。

雑木林は萌芽更新、伐採のサイクルで管理している。

- ・伝統的なやり方を踏襲してもうまくいくとは限らない。

ボランティアの人たちは近所の農家に人に言われたとおりひこ生えを痛めないために伐採したあと5年間入らないことにして見ていなかった。ところが中で主要な木のコナラが枯れていた。

昔通りの管理をしたら様々な生きものがよみがえったという例もある。

町田市北部にある、図師小野路歴史環境保全地域の例

町田歴環管理組合という元々この土地の農家の人たちが伝統的な手法で管理することによって、ミズオオバコなどいろいろな生き物がよみがえってくることが分かった。

ここではかなり纏まった面積が里山として今も残されていて、周りとの関係が昔と同じで、今ある埋土種子も大規模に地形が変えられていないのできちんと残っている。伝統的管理を再開すればうまくいく場だったのだらうと思われる。

結論

目標は思いではなく現実に即して考える

みんなが共通の目標を（それぞれが違いが分かった上で）目指して何かしていく。

立場を離れて議論できる場が必要

目標とする自然や、利用を共有したり、公園をゾーニングしたり、いろいろな価値観があってそれについて考えたりして、共通の目標を作ったり、保全したり使うための計画をたてて、ようすを見ながら、公園の周囲人とも折り合いを付けながら、管理していく。

時間がかかる

議論だけでなく「やってみて考える」ことがかぎ

参加者から

質問

ホテルが大好きだが、ホテルだけを大事にするように偏って保全することが良くないという例があるか？

答

都立野川公園では鑑賞会の前にホテルが網にかかってしまうのでクモを除去した例がある。

ホテルの養殖をしていると人間は少しでも多くの蛍が発生するようにしたくなるが、自然の条件からいくらかでも増やすことは不可能。

一つの生きものを大事にすると他の生きものに目が行かなくなることもある。

質問

校庭の続きに森があり、こどもが遊べるようにデザインを考えて計画的に整備したい。お金がかからない良い例があるか。

答

どういう林にしたら良いかももう一度考えて少しずつ計画的に進める。切った木は有効利用する。そのまま置いておくことは、他の木には害があるかも知れないが、朽ち木を利用する生きものが住めるようになる

質問（報告）

家の近くの雑木林を手入れしようとはじめた。遊具なども作り近所のこどもが遊びに来るようになった。

そのうち、近くに新たに越してきた人たちが、危ないから遊ばせないでくれと言いだす子どもたちも来なくなった。

コメント

公共の場所でないところは、試みに大胆なことをしてもらい、そういうことを通して公共の場所についても状況が変わってくれば良いなと思っている。これを含めて

あらゆる人間の試みは社会実験として、もっと里山が大事にされるような、新しい里山かも知れないが、そういう世の中ができてくれば良いと思っている。そのため

にはやってみて、考えることで、次の状況をつくって行く、順応的管理の考え方が非常に大事と思っている。

活動・研究の発表 9階 ホール 112

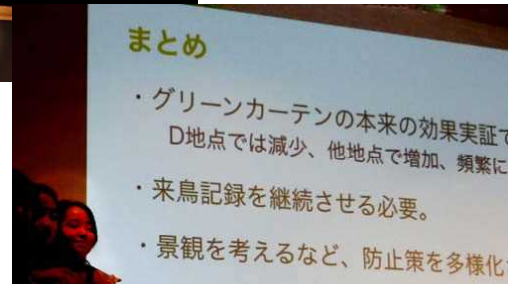
学校の自然体験・児童・生徒の活動発表 11日(土・祝)13:00から



バードウォッチングの活動を紹介する
厚木市立荻野小学校



身近な環境を守る活動を発表する厚木市立上荻野小学校



七沢希望の丘初等学校 校舎への
バードストライクを防ぐ研究の発表。

大学生、研究者などの発表 12日(日)14:55から9階 ホール 1 1 2 16:00 から6階 ルーム601

(うちわばなし)

お恥ずかしい話ですが、事務局の手違いで会場の予約が16時までになっていました。これだと前のプログラム、講演の後1時間しかありません。これでは研究発表の時間が苦しくなります。しかもこれが分かった時点で発表の申し込みは受付の途中でした。

このあと、どれだけエントリーがあるか分からないということで、急遽別の会場として601と602という仕切

りを取れば大きく使える部屋を19時まで確保しました。ところが切り込みまでの申し込みは、7テーマに止まり、今度は時間が余る事態になりました。そこで、発表については、団体の活動報告も含めて当日申し込みも可として、可能な限りに広報しました。

結果、会場を移してもほとんどの人はそのまま参加し、18時過ぎまで熱心に発表やそれに伴う質疑が行われました。

レジュメ集に載らなかった当日参加の発表をここに項目だけ記載して記録にとどめます。

生態系保全を目指した公園の管理 NPO 法人 Dream eggs ゆめ・たま 相川健志氏
(横浜市泉区での活動)

ツバメの孵入りと観察舎の印象評価について 日本大学生物資源学科くらしの生物学科 小島仁志氏
(ポスターセッションでの説明の補足)

東海大学北野研究室から 研究室紹介と、ウシモツゴ、ツマキリオオミズスマシの研究 石井幹也氏、佐々木勇太氏
厚木市あつぎこどもの森公園周辺に生息する外来ガエルの寄生虫について 東京農業大学野生動物学研究室 齋藤寛氏
(ポスターセッションでの説明の補足)

スライド映写会 9階 ホール 112

市民が撮った自然の紹介 2月11日(土・祝)14:15から

従来は、厚木植物会と、厚木市郷土資料館が共催して行っていたものを昨年度からこのフォーラムの一環として位置づけるものになりました。

次年度への反省

16回目を迎える、さがみ自然フォーラムは初期の頃に比べて大きく発展しています。ところが運営体制は以前とそれほど変わっていません。運営委員会のメンバーは現在、

厚木市の職員を含めて10名ですが次年度に向けて、しっかり計画的に進めていこうと話しました。
(準備段階)

- ・年初に工程表を作成して進める。
- ・事前のPR不足。
- ・発表者への連絡不足。段取りがうまくいかなかった。
- ・レジュメ集の原稿締め切りを早くして内容を検討する時間を作る。
- ・レジュメ集の編集時間が少なくもくじができなかった。(運営)
- ・ポスターセッションの時間が不足して、していただけない展示があった。
- ・役割分担が曖昧な部分があった。
- ・工作コーナーが機能しなかった。
- ・ステージ発表の際 動画が使えなかった。事前にデータが確認できる段取りをするべき。

展示会場でのポスターセッションは、参加主体の増加に伴い、時間的に苦しくなっています。

一方、今回設定したような会場では落ち着いて丁寧な発表ができます。

フォーラムのあり方として、展示と共に口頭発表会も行うという方式にしていくのはいかがでしょうかと考えられます。

また、発表する団体や、若い研究者たちに活動や研究を奨励する目的で、僅かながら助成しています。

このための資金を、会員の会費で賄うことにより、会員から助成を受ける団体や人に応援の思いを届けることになると考えています。

とは言うものの、この事業に対して他のファンドなどからの助成を得るなどの努力もする必要がありそうです。

将来に向けて

来年の さがみ自然フォーラムは 2018年2月8日(木) から12日(月) までです

神奈川県内自然保護ニュース

(このページに掲載する情報をお寄せください。)

かながわの森林はどのように管理されるか

神奈川県自然環境保全センター農林水産関係試験研究推進構想 森林等自然環境の部 2017年3月

丹沢大山自然再生計画、かながわ水源環境保全・再生計画を推進していく上で、自然環境保全センターの研究部門は計画策定のための科学的情報、知見の提供、事業実施にかかる対策技術の開発、効果のモニタリングなどの役割を担っています。

研究推進に当たっては5年ごとに見直しが行われ、今回2017年度から2021年度までの構想が策定された。その概要です。

研究開発の方向と研究目標・課題

研究開発の方向	研究目標 (景観域)	研究課題	5年後の目標
森林生態系の 保全・再生の 支援	ブナ林再生事業 の順応的推進手 法の開発(奥山 域)	①総合モニタリングによる再生事業 の効果検証(新規) ②ブナ林健全性評価と衰退リスクマ ップの更新 ③ブナ林再生手法の改良	衰退リスクマップ及び各種モニタ リングに基づき、効果的・順応的な ブナ林再生事業の進め方を確立し、 現存するブナの枯死とギャップの拡 大に歯止めをかける。
	水源林の公益的 機能の評価・検 証と管理技術の 改良(山地域)	①対照流域法調査による水源施策の 2次的アウトカム(水源かん養機 能の向上)の検証 ②森林生態系効果把握調査による水 源施策の2次的アウトカム(生 態系の健全化)の検証 ③スギ・ヒノキの人工林の管理技術 の改良(一部新規) ④混交林の管理技術の改良(一部新 規)	水源環境保全・再生施策大綱の全 体計画期間(2007～2027年度)の 最終評価に向けて、統合的評価指標 である2次的アウトカムにかかる最 終検証成果の骨格を構築する。
	二ホンジカの統 合的管理手法の 確立(全森林域)	①シカ密度低減下における生物多様 性回復の評価手法の開発(新規) ②シカ捕獲支援技術の開発(新規) ③シカと森林の統合管理手法の確立	生態系健全化の指針となる森林タ イプ毎の生物多様性回復レベル評価 技術の開発。 ワイルドライフレンジャー等の管 理捕獲の捕獲効率向上に資する捕獲 支援技術の開発。

なお、参考までに前期の構想期間中に作成された成果物の一覧は次の通りです。ホームページ上で公開されているものもあります。詳しくは、神奈川県自然保護センター 046-248-0323 研究連携課にお問い合わせください。

成果品目録(2012年以降)

1 手引き、マニュアル、図鑑、センター報告特集類

(1) ブナ林関係

『丹沢山地のブナ林再生に向けて～衰退原因の解明と再生技術の開発～』自然環境保全センター報告 第14号, 92pp, 2016年

『丹沢の希少植物図鑑—希少植物の保護に向けて—』57pp, 2016年

『丹沢ブナ林の再生指針(素案)』2017年

(2) 水源林関係

『森林における水環境モニタリングの始動』自然環境保全センター報告第10号, 287pp, 2013年

『水源林整備の手引き改訂第1版』56pp, 2013年(当センター水源の森林推進課発行, 研究連携課執筆協力)

『神奈川県広葉樹実生図鑑改訂第2版』148pp, 2016年

『水源林整備の手引き改訂第2版』57pp, 2017年(水源環境保全課発行, 研究連携課執筆協力) (印刷中)

(3) シカ関係

『第2次神奈川県二ホンシカ保護管理計画の取組みとその成果』自然環境保全センター報告第11号, 93pp, 2013年

『神奈川県シカ不嗜好性植物図鑑』58pp, 2016年

神奈川自然誌資料 38

2017年2月28日刊

神奈川自然誌資料は、神奈川県生命の星・地球博物館が毎年1回発行する、県内の自然に関する研究論文集です。

この度発行されたものを項目のみ紹介します。

内容については、神奈川県立生命の星・地球博物館または県内公共図書館等で閲覧できます。

◇ ◇ ◇

陶山 舞・高木 望・佐藤大樹・折原貴道：本州初記録となるブユ幼虫の腸内糸状菌 *Simliomyces microporus* (ハルペラ目)の神奈川県からの発見

田中徳久：神奈川県に産する帰化植物の原産地

設楽拓人・末次健司・福永裕一：東京都新産の従属栄養性ラン科植物エンシュウムヨウラン

小林由佳・岩佐真宏：土壌動物相からみた都市林と山地林の環境について

倉持卓司・倉持敦子：三浦半島沿岸域から採集されたカンザシウミウシ(軟体動物門, 腹足綱, 異鰓上目)

植田育男：相模湾の江の島周辺におけるミドリイガイの冬季生残率に地点差をもたらす要因について

丸山智朗：神奈川県および伊豆半島の河川から採集された注目すべき熱帯性コエビ類5種

伊藤寿茂：境川河口域におけるアミメノコギリガザミの初記録

中村麻美・安倍 弘・岩田隆太郎：神奈川県藤沢市近郊の小規模孤立林における樹上で活動するアリ類

伊藤寿茂・伊藤 浩：関東地方固有種キロホソゴミムシ(コウチュウ目オサムシ科)によるトビイロウンカ(カメムシ目ウンカ科)捕食の初記録

渡邊まゆみ・手塚真理・高橋孝洋：秦野市葛葉緑地周辺におけるハラビロカマキリとムネアカハラビロカマキリの卵鞘の形態と分布状況について

岸 一弘・堀田佳之介・トンボの棲む街づくり調査グループ：平塚市におけるトンボ目の生息状況(2015-2016)

三井翔太・手良村知功・三井 修：下山水系の魚類相について

山川宇宙・坪 健人・酒井 卓・三井翔太・瀬能 宏：相模湾とその周辺地域の河川および沿岸域で記録された注目すべき魚類5種

崎山直夫・瀬能 宏・茶位 潔・岩瀬成知：2016年に相模湾から得られたウバザメ(ネズミザメ目ウバザメ科)と国内における出現状況

樋口理紗・崎山直夫・鈴木良博：相模湾におけるマダラトビエイの初記録

崎山直夫・瀬能 宏：相模湾における稀種アマシイラ(スズキ目アマシイラ科)の記録

神奈川県自然保護協会からのお知らせ

前号に掲載した「どう護るか、生物多様性ホットスポット・県立茅ヶ崎里山公園に学ぶ」講演記録について講演者の岸一弘さんから次のお便りがありましたのでお知らせします。

《里山公園倶楽部の管理について、「…ここでは農薬を若干は使うところもあるのですが、生き物に配慮してできるだけ使わないようにしています」とお話しさせていただいたのですが、新たな情報が入り、現在は「田んぼ、畑の管理に農薬は一切使用していない」ということが判明しました。》とのことです。

ニューズレター 88号

2017年 3月31日発行

特定非営利活動法人

〒243-0816 厚木市 林 5-15-10 青砥方

神奈川県自然保護協会

TEL&FAX 046-222-2356

<http://www.eco-kana.org>

Eメール: nacs-kana-office01@eco-kana.org

郵便振替口座 00230-0-112653 銀行からの振り込みは ゆうちょ銀行(9900) 029 (ぎんこう)店 当座 0112653